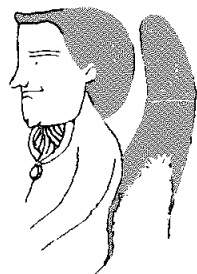


安全運転のために

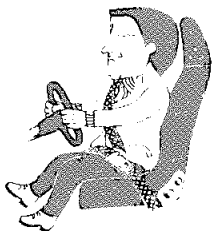
★正しいドライビング・ポジションは急カーブや振動に対して身体がふらつかず、両手両足を敏速かつ、正確に動かせる姿勢です。

また前後の視界が十分確保できる、長距離運転にも疲れない姿勢であることも大切です。(シートの調整の項目参照)



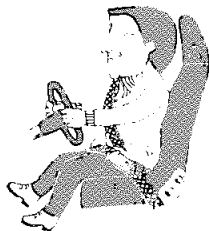
★セーフティ・ベルトは

必ず装着して運転しましょう。特に腰ベルトは腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。(セーフティ・ベルトを忘れずにの項目参照)



腹の位置にかけると万一のとき身体にくいこみ危険です。

★ヘッド・レストの位置はヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あげないようにしましょう。

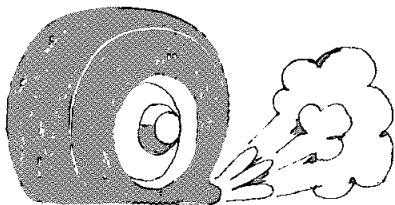


ヘッド・レストとの間隔が多いと万一のとき危険防止に役立ちません。

これだけはぜひ！ 守りましょう

★タイヤは

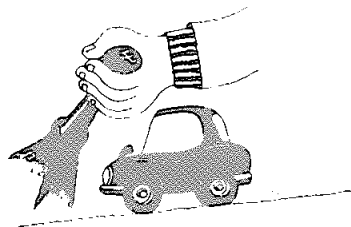
1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えます。(タイヤの溝の深さの項目参照)



空気圧が適正でなかったり、摩耗がはげしいような場合は、走行中、パンク、バーストを起こしやすくなり危険です。

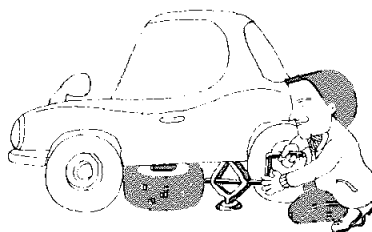
★長い坂道を下る場合はエンジン・ブレーキを活用しましょう。(ブレーキ、クラッチの使い方の項目参照)

フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。



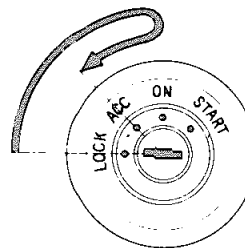
★ジャッキを使用するときは

所定の位置に確実にセットしましょう。輪止め、パーキング・ブレーキを忘れずに。(パンクの処置の項目参照)



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

★エンジンを停止して移動する場合は(けん引される場合など)エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。(エンジン・スイッチの項目参照)



走行中はキーを絶対にロックの位置にまわさないでください。ハンドルが切れなくなり危険です。

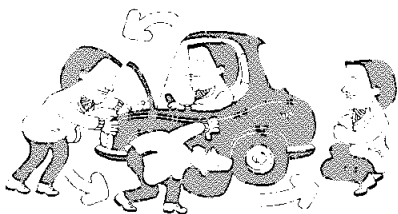
★ブレーキ・ブースター付き車は走行中にエンジンを停止させないでください。エンジンが停止すると、ブレーキ・ブースターが作用しないのでブレーキの効きが悪くなります。

★排気ガスは

密閉した車庫内で長時間エンジンをかけたままにしておくと空気を汚し、ガス中毒を起こす危険があります。

★仕業点検は

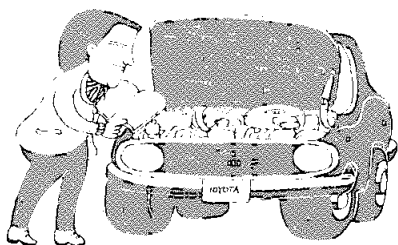
故障を未然に防ぐため、必ず行ないましょう。(仕業点検の項目参照)



★定期点検は

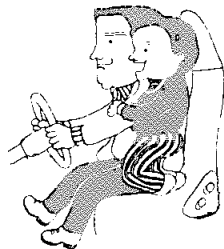
整備手帳にもとづいて必ず行ないましょう。

車の性能を維持し安全に運転していただくためには大切なことです。



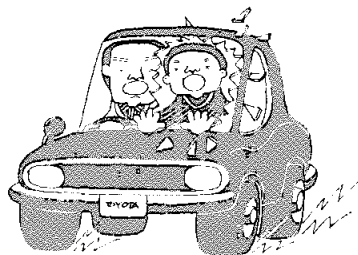
お子様を乗せる とき

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせましょう。



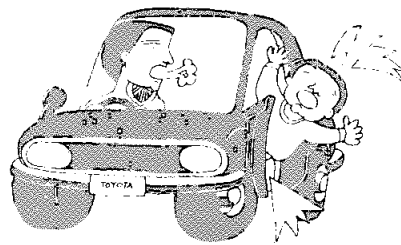
助手席ではドライバーのじゃまになります。

万一のとき放り出される心配があります。

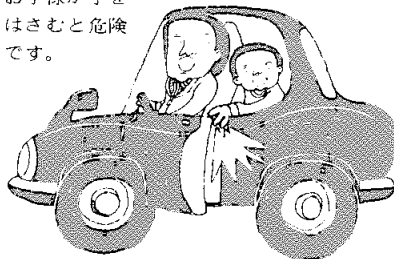


★ドアのロックを確実にしましょう。

ロックをすれば、ドアハンドルをいじっても、ドアは開きません。



お子様が手をはさむと危険です。



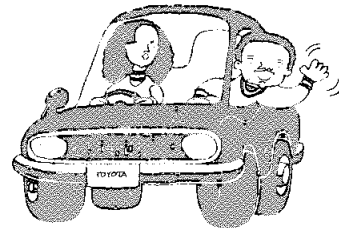
★車から離れるときは、お子様と一緒に連れてゆきましょう。



室内にお子様を残しておくと思いがけない事故が起きる場合があります。

★窓から顔や手などを出させないように しましょう。

窓から乗り出すと思いがけないケガをすることがあります。

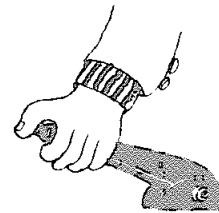


対向車や、後続車に迷惑をかけたままマナー違反です。

故障を防ぐために

★パーキング・ブレーキ・レバーは走行する前に必ず確実にともまでもし、インジケーター・ランプが消灯するのを確かめましょう。

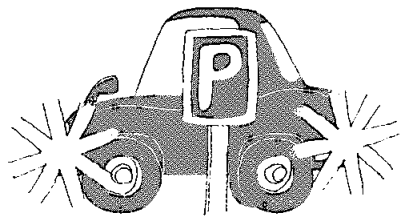
(パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照)



ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキが効きにくくなります。

★バッテリーは

完全充電でもエンジンを停止してランプ類を使用すると消耗が激しいものです。

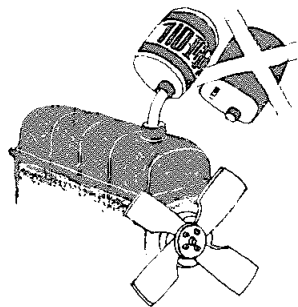


バッテリーがあがりエンジン始動ができなくなることがあります。

★オイルの補給は

同品質か、それ以上のオイルを使用しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

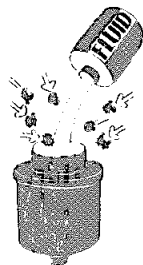


質の異なるオイルを補給すると性能が低下する恐れがあります。

★ブレーキ、クラッチ・フルードを補給するときは

同品質、同銘柄のフルードを必ず使いましょう。なお、タンク内にゴミがはいらないように十分注意しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

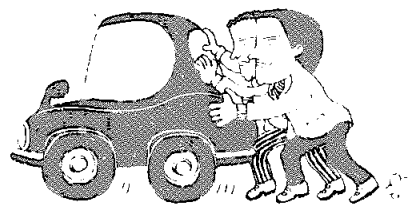


ゴミがはいるとブレーキが効かなくなり、クラッチは切れなくなることがあります。

万—のために—

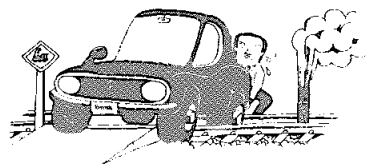
★エンストして始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2. マニュアル・トランスミッション車の場合、急を要するときはスターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターをまわします。

この時クラッチから足を離しておきます。また平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



踏切など危険な場所では、保安炎筒で合図してください。

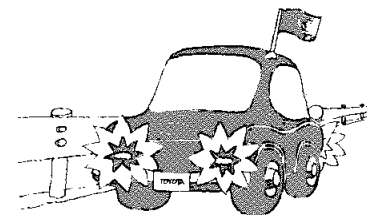
★高速走行中、パンクやバースト(タイヤの空気が急に抜けること)したときは

ハンドルをしっかりとって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または故障車とわかるように赤旗などを目につくよう表示します。



★遠出して故障し、なおせないときは整備手帳のサービス網をご覧になって、最寄りの取扱販売店へ連絡しましょう。